

第2回中間報告

(報告期間 2021 年 4月 1日～2021年 6月 30 日)

国際ロータリー第 2710 地区

2020-2021 年度 グローバル補助金奨学生

真加部 湧大

報告書提出日：2021年7月20日

派遣クラブ：福山北ロータリークラブ

カウンセラー：奥野 一成様

受け入れクラブ：Rotary club of Newham

カウンセラー：Mr. Emil Petrov

留学先：University College London

専攻：Master of Development Education and Global Learning

1. 学業の報告

Summer Semester では、Global Citizenship Educationのモジュールを履修しました。他の学生とのディスカッションを通して、これまでの世界市民教育の多様なあり方の類型や、各国の実践について理解を深めました。

特に移民についての学習をした際は、同じ問題でも、当事者によって思いが違うこと、そもそも「移民」と聞いてイメージすることについても、その人のバックグラウンドによって大きく異なることを知りました。日本の教育においても、海外から日本に来て住むことになった人の立場になって物事を考えてみたり、その際困ることや必要なことを考えたりする機会は大切であるし、その視点が不足していることで無意識に差別意識につながっていることも多いと感じました。最後の課題では、日本で生活している外国人労働者の視点や思いにはどのようなものがあるか、これまでの、そのことに関わる学習教材にはどのようなものがあるかを、他国の実践と比較しながらまとめ、今後それをどう日本の学校教育で考えていくべきか、といったことについて分析し、まとめることを決めました。

Dissertationでは、開発教育における参加型学習という、学習者にとっては身近に感じづらい開発課題を、フォトランゲージやロールプレイ等を活用し主体的にリフレクションや意見共有をしながら学習を進めていく手法を学び、実践し続けておられる教師の意識変容について調査しました。様々な先生方の意識変容に関するインタビューを終え、本当に多様な学びや気づきがありました。今後開発教育や世界市民教育を担う先生方への実践意欲にも少しでもつながるような論文がまとめられるよう、頑張っていきたいと思います。

2. 受け入れロータリークラブとの関わり

6月下旬に帰国したのですが、帰国前に以前のNewhamクラブ代表の方と直接会って話をすることが出来ました。その場でバナーやバッジを交換し、様々お話をすることが出来ました。現代表の方とは直接会うことはできませんでしたが、帰国前もお話し、激励のジャケットを頂きました。コロナ禍でなかなか身近に頼れる人を見つけるのが難しい状況の中、気にかけてくださりとてもありがたかったです。



3. 生活面

4月以降、徐々にコロナに関する規制緩和が進み、友人に会えたり様々なものを見に行けたりする機会にも少しずつ恵まれることが出来ました。担当教授の方とは直接会うことはできなかったものの、密に連絡を取り合い様々な事を相談したり報告したりできるようになり、とてもありがたく思っています。その他、帰国後もつながることのできる何人かの友人を持つことが出来ました。

6月下旬に帰国することとなりましたが、つながることのできた人脈や経験、コロナ禍の留学だったからこそ考えることが出来たこと等を、これからも大切にしていきたいと思えます。

4. 今後の目標

現在、修士論文とSummer semesterに履修したモジュールの最後の課題に取り組むと同時に、9月からの仕事の就活を行っています。留学を通して、多様性や不平等といったグローバルイシューについて学習することで、自身のものの見方・考え方や生き方を更新し続けられ、異なる他者への寛容性や利他性を育んでいける学習者を育てることや、そのファシリテーターを育てるために尽力したいという思いはさらに強くなり、4月からは再度教育現場で働きたいとの思いが強くなっています。4月からの職場となる場所はいくらか目途が立ってきた。しかし、卒業後の9月～3月までの職場については、滞在経験のあるインドでの仕事を予定しており連携を取っていたのですが、このような状況下で難しくなっていました。半年間の採用となるとなかなか難しいのですが、これまでの経験とこれからの経験をつなぐことが出来、力になることが出来る職場と出会い、よい報告を皆様にできるよう、努力を続けていきたいと思えます。